

## 人気宅配収納サービスの維持に不可欠な 作業記録動画データ

### Amazon S3からWasabiへのバックアップ先移行で ストレージコストは1/3に、運用工数はゼロに

“最大の決め手はコストです。試算では1/3に削減できました。ストレージ性能も、Amazon S3と同等かそれを上回っていました。また、採用するストレージは当社のインフラとして徹底活用していきたいと思っていた中、Wasabiは技術資料が充実しており、質問にも技術的かつ論理的に答えてくれ、テクノロジーを尊重している点が心にさざりました。”

株式会社サマリー シニアソフトウェアエンジニア 野村 圭介 氏

#### 概要

サマリーは、テクノロジーの力で私たちの日常を変えている企業の一つです。主軸となるビジネス「サマリーポケット」は、宅配型の収納サービスです。荷主は自宅にしながら、スマートフォンやパソコンを使ってモノの預け入れ、取り出し、管理が行えます。サマリー社のミッションは「テクノロジーで『所有』のあり方をアップデートする」。本や音楽、お金などがデータとして管理できるようになり、より便利になっている世の中で、すべての「モノ」をデータのように取り扱える未来を実現することをめざしています。

サービスの集荷・配送および倉庫内オペレーションのさらなる最適化を図るとともに柔軟性・拡張性をもったサービス開発のため、2021年10月には、自社開発の倉庫管理システムを導入し、保管センターを新設しました。

サマリーポケットのプランの中でも、最も人気のあるのが、荷主の預けたアイテムをスタッフが1点ずつ写真で撮影した上で管理ができる「スタンダードプラン」です。スタッフ作業の万全を期すため作業場と搬出ルートに数十台の作業記録カメラを設置。撮影された動画は、スピード感を持ってスタッフの作業プロセスを改善するためにも活用されます。データはローカル環境に半年分保管されるとともに、クラウドにバックアップしており、こちらは半永久的に保管されます。データを削除しないのは、預かるモノの保管期間が数年単位の長期にわたる可能性があるからです。

#### 課題

そのバックアップストレージとして利用していたのがAmazon S3でした。利用当初は問題なかったのですが、データ容量が増えるにつれて単価が気にかかるようになってきました。そこへ円安が追い打ちをかけました。もっとコストの低いストレージクラスへ移ることも考えましたが、それはデータ取り出しに時間がかかります。モノを取り出した荷主から問い合わせがあった場合、すぐに動画データを確認して状況を調査しなければなりません。データ取り出しに時間がかかる案は採用できませんでした。

課題はもう一つありました。Amazon S3をNVR（ネットワークビデオレコーダー）にディスクと認識させるため、s3fsコマンドを使用してマウントしていましたが、このマウントがときおり外れてしまい、通知が来るたびにそのつど対応しなければなりません。バックアップは保管センター全体の運営、サービス維持に欠かせないテクノロジー要件ではありますが、ビジネスバランスと運用負荷についても考える必要があります。四半期の財務分析を終えた2023年2月、同社は新しいストレージサービスを探し始めました。

#### ソリューション

以前から注目していたAmazon S3互換ストレージであるWasabiを検討候補にあげました。30日間無料で最大1TBまで Wasabiを利用できるトライアルプランがあることを知り、株式会社サマリー シニアソフトウェアエンジニア 野村 圭介氏はさっそく試しました。Amazon S3互換とはどの程度の互換を意味しているのかを技術調査するとともに、AWSクライアントからの操作や、s3fsコマンドでマウントしての読み書きなどを試した結果、容量の大きな動画データも問題なく扱えることがわかりました。他にも、国内外のクラウドストレージベンダーをいくつか候補に上げてはいました。しかし、Wasabiのトライアル結果が良好であったこと

#### お客様



#### 業界

宅配収納サービス

#### ユースケース

作業記録動画バックアップ

#### 課題

- データ容量増につれ懸念材料になった
- Amazon S3の単価や円安
- マウントが外れる問題が発生、その都度対応が必要

#### ソリューション

Wasabi Hot Cloud Storage & データ移行サービス

#### 導入結果

- データ移行サービスにより27TBを  
実質3日で完全移行
- ストレージコストが1/3に削減
- マウント外れ問題が解消し、対応運用から解放

からそのまま採用を決定。野村氏はその理由を次のように語ります。

「最大の決め手はコストと、PoC実施について協力的だったことです。試算では1/3に圧縮できました。ストレージとしての性能も、Amazon S3と同等かそれを上回るという状況でまったく遜色ありませんでした。また採用するストレージは、単なるデータのバックアップ先としてではなく、当社のインフラとして積極的に使いこなしていきたいと思っていました。そうした中、Wasabiは技術資料が充実しており、『個人情報扱いは？』といった細かい質問にも、技術的かつ論理的に答えてくれるなど、テクノロジーを尊重しているところが心にさざりました」

Amazon S3からのデータ移行は、当初サマリー側で実施する予定でした。しかし、不測の事態が起こります。1TBを越えたあたりで、転送速度が目に見えて遅くなったのです。調査を重ねても原因は判明しません。その時点でデータ容量は27TBありました。そのままだと移行に2~3カ月かかる計算になり、Amazon S3のコストがかかり続けます。また野村氏自身、本業はIoTエンジニアでこうしたインフラに関わる運用はメイン担当ではないため、必要以上に時間が割かれるのは本意ではありませんでした。そこで、Wasabiのデータ移行サービス(Wasabi Cloud Sync Manager)を利用することにし、これにより実質3日で27TBの動画データ移行を完了することができました。

「自分たちで移行すれば作業料はかからないというメリットはありますが、実際にやってみると思ってもみなかった苦労がありました。終わりが見えなくなっている状態だったので、もうWasabiに任せよう。当社としてはボトルネックの調査に割く工数と比較してもデータ移行サービスの費用は十分に見合う金額でした」

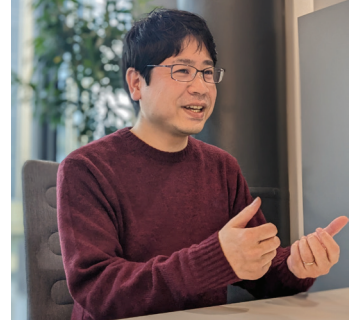
## 結果

データ移行が完了したのは2023年8月。そこから順調にWasabi Hot Cloud Storageへのデータバックアップは進んでおり、現在は39.7TBまで増加しています。NVRが使用する一次領域のデータを含めると、その容量は46.7TBになります。

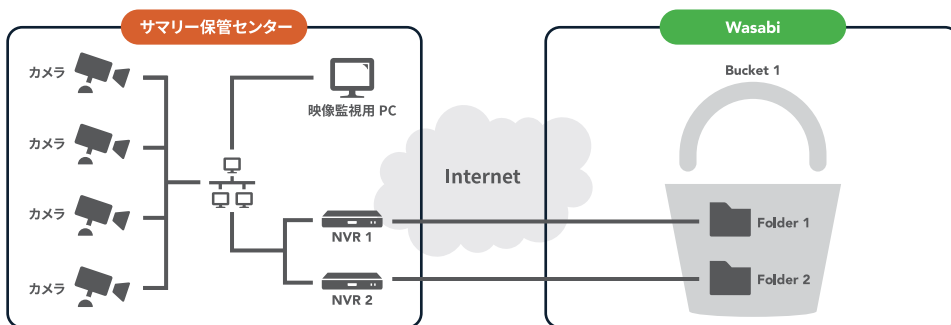
導入の結果、ストレージコストは1/3にまで軽減しました。また、s3fsコマンドによってマウントが外れるという問題も解消し、野村氏はバックアップ運用から解放され、本業のIoT関連のエンジニアリングに専念できるようになりました。野村氏は、今後の展望について次のように語ります。

「作業場ではお預かりしたアイテムの写真を撮影しており、画像データとして保管しています。Wasabiに保管するには若干のアプリケーション改修が必要ですが、今後はこちらについてもWasabiへの移行を検討していきたいと考えています。また、「『所有』のあり方をアップデートする」というミッションに照らせば、データもその対象で、ストレージはまさにデータの倉庫と見ることができます。将来的にWasabiとは、パートナーとして何かビジネススキームを考えていければいいですね」

自ら手綱を握ってストレージを徹底活用したいというならWasabiが向いている、と野村氏。同社ビジネスのさらなる加速にWasabi Hot Cloud Storageが貢献しています。



株式会社サマリー  
シニアソフトウェアエンジニア  
野村 圭介氏



## Wasabiについて

Wasabiは、データストレージをシンプル、低価格、高速かつセキュアにすることで、世界中のすべてのデータを保存することを使命としています。バックアップ、X線、監視ビデオ、財務データ、メディア、エンターテインメント、科学データなど、保存するデータがあるなら、Wasabiは、常に最も安価で、最も速く、最も安全で信頼性の高いクラウドストレージになることを約束します。それは私たちが実現するすべてであり、他社よりもそれをうまく実行しています。

